

## 夏季間酷暑を受けての熱中症対策について

NPO 法人大東市青少年協会

キャンピィだいとう（大東市立野外活動センター）

センター長：中田 葉子

JL 担当職員：小原 茉由子

平素はNPO 法人大東市青少年協会の活動にご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。今年度の夏も酷暑が予想されます。昨年度に引き続き、炎天下時のキャンプ活動の対応(熱中症対応)を厳戒態勢で職員・ボランティアスタッフが対応させていただきます。またキャンプ活動時における疑問点・不安点等ありましたら何なりとご質問ください。保護者の方ひとりひとりの不安点を払しょくした上で当日参加する子ども達に、楽しい体験を提供できるように努めてまいります。子ども達の安全第一で取り組んでいきますのでよろしくご願いたします。以下にキャンプ活動時の職員とボランティアリーダー達に周知している熱中症対応は下記の通りです。ご一読ください。

### 記

#### 【ハイキング時】

※キャンパー＝参加者・子ども達

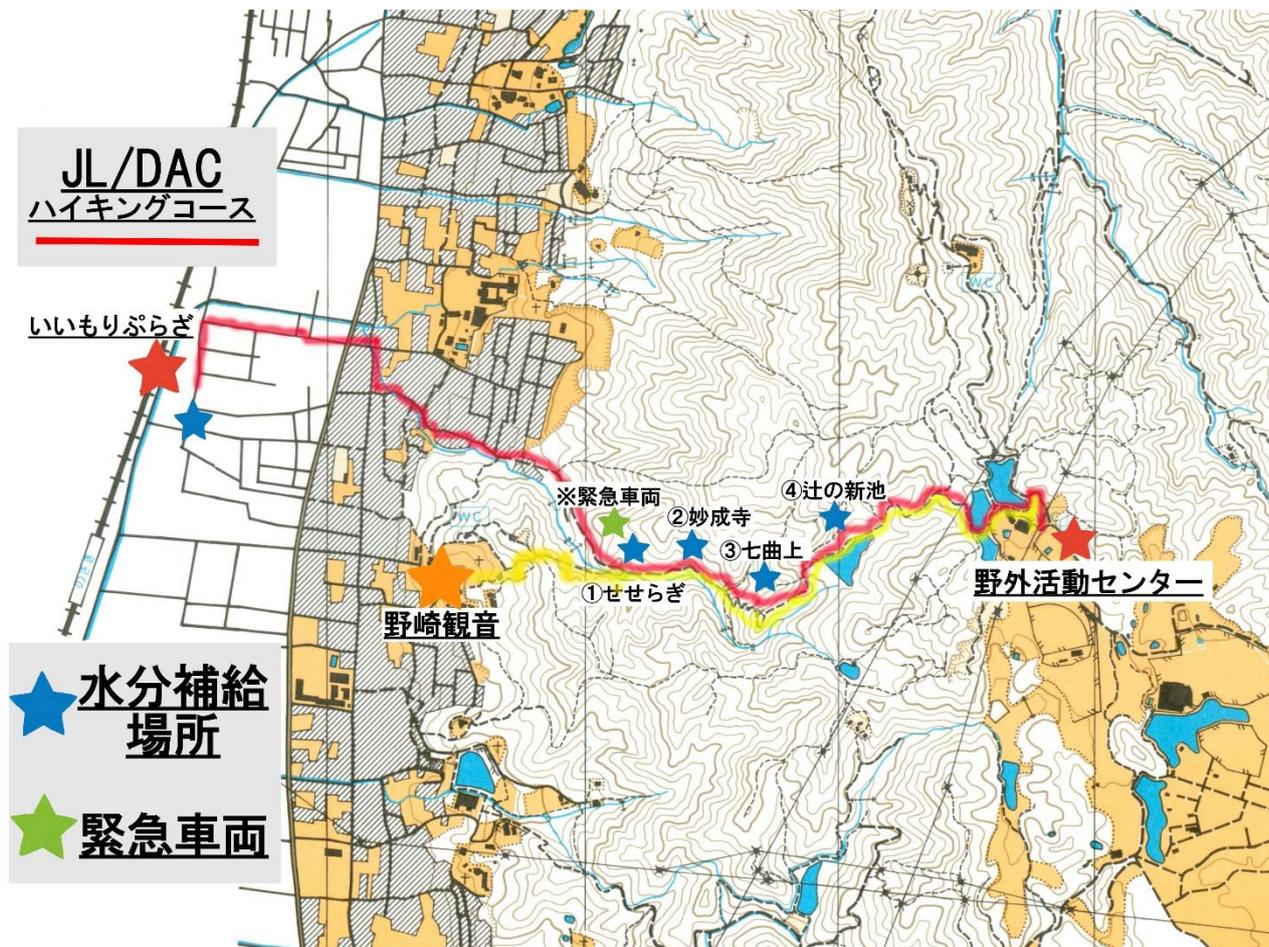
- ① 小学生の熱中症の半数以上がご飯を食べてない人がなっている。山登り中のアイスブレイクで、食事を食べたかを確認して、食べていないキャンパーには特に注意する必要がある。
- ② 霧吹きミストを各班分購入してハイキング時・集合時・休憩時などにシュッシュとキャンパーにかける。(体の表面を濡らすことで熱を下げる。霧吹きは楽しい演出にもなる)  
※野外活動センターの野外テーブルと自炊場の間にはミストの装置も配置してある。起床時から就寝時までミストは稼働したままにする。
- ③ 食塩(タブレット)でもいいので塩分ミネラルを必ず摂取する。野外活動センターには塩分タブレットを常備している。山登り・下山時にはキャンパーにタブレットを支給する。
- ④ 休憩時に帽子をぬがせ熱を発散させる(頭部に熱がこもるため)。
- ⑤ 水分は少量をこまめに補給する(一度に大量に摂取しても効果はあまりみられない。)  
※野外活動センターには常時麦茶を準備している。水筒のお茶がなくなれば水筒にお茶を補給する。
- ⑥ 山登り中、20分に一度の休憩をとる。(木陰の下等涼しい場所)  
【絵日傘ハイキングコース】①せせらぎ②妙成寺③七曲上④辻の新池、4か所で必ず休憩を確保し、水分補給・帽子をとる・ミストの吹きかけを徹底する。その他必要であれば適宜休憩する。
- ⑦ 山登り中に参加者のお茶がなくなったら、配備している無線で野外活動センターと連絡をとりあい野外活動センターから職員又はリーダーが補給する。
- ⑧ 山登り時の緊急車両の配置は従来通り行う。七曲下まではせせらぎに駐車してある職員の手で行

う。七曲より上ならば、ファーストエイドを行いつつ、野外活動センターと連絡を取り合っ、職員が必要な処置をとる。(救急車の手配等)

⑨汗を大量にかいた後はスポーツドリンクで水分補給。体調不良のこどもは経口補水液。活動時の主な水分補給は麦茶とする。天候と体調をみながら経口補水液の摂取を行う。

### 【キャンプ活動時】

- ① 避難先として集会室、保健室にエアコンをつけておく。
- ② 入所式も従来のポール前でなく涼しい所で行う。(木陰の下、シニアの森、集会室等)
- ③ 水分は少量をこまめに補給する。(一度に大量に摂取しても効果はあまりみられない。)
- ④ 休憩時に帽子をぬがせ熱を発散させる。(頭部に熱がこもるため)
- ⑤ キャンパーに「しんどい?大丈夫?」と聞かない。こども達は「大丈夫。」と答えます。状況・体調から判断し必要であれば休憩をとる。少しでも気にかかるキャンパーがいる場合必ず職員の判断を仰ぐ。キャンパーは体調不良時、自己判断ができないことを認識しておく。命を守るのは大人(職員・リーダー)です。



### 【飯盛山ハイキングマップ：緊急車両・水分補給休憩ポイント】

以上